

都北・西諸県ブロック部会の取組

本部会では、都城市・三股町特別支援教育研究会、県立都城さくら聴覚支援学校、県立都城きりしま支援学校が連携した都北地区研究会と、西諸県地区研究会が、それぞれに各地区の特色を生かし研究・実践をしている。本年度は、理事担当の都北地区の取組について活動報告をする。

都北地区では、2度の事務局・役員会、特別支援学級担当者会、定期総会、授業研究会、研修部による「教育講演会」、行事部による「合同作品展」、資料作成部による実践報告集発行及び、各地区における交流学習会、研修会を実践し、研修と会員相互の連携を深めた。

また、九特連研究大会「鹿児島大会」分科会において、合理的配慮の取組についての提案発表を行った。以下は、提案発表のまとめとして、発表内容を再編集したものである。

令和元年度 九特連研究大会・九情研「鹿児島大会」 第7分科会 合理的配慮の取組
 テーマ ユニバーサルデザインの視点と個に応じた環境設定
 自分で考え、判断し、行動することが苦手な児童への「わかる、できる授業」への取組を通して

1 はじめに

…途中略…一生懸命学習や活動に取り組み、与えられたことを確実にこなしていこうとする児童たちである。…それぞれが交流学級での生活に困難さを感じているところがあり、本学級は分かり合える仲間がいる安心して生活できる場になっている。…今必要なことは、できることを増やすこと、物事に向き合い正しく捉えること、目の前の出来事に対して自力で対応できる力を付けることであると考えた。…

イ 学習活動のための準備

- (ア) 明日の準備物をメモする習慣
忘れ物がないよう、意識した。
- (イ) 活動で使う物の置き場所
個別の引き出しや棚を用意し、何をどこに入れるかを決めた。



教科書類と学習プリント 個人ロッカー

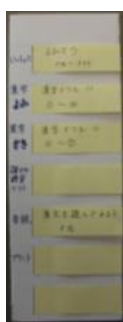
2 指導の実際

(1) 基礎的環境整備

ア 学習活動の手順とルール (指示の可視化)

(ア) 学習の流れの提示

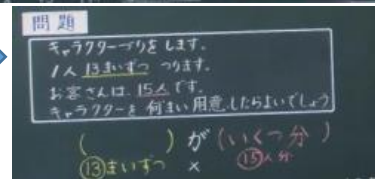
「全体の学習の流れ」…黒板前面に提示
 「個人の学習の内容」…個に配慮した指示



(2) 授業のユニバーサルデザイン化

ア 短く、伝わりやすい言葉の使用

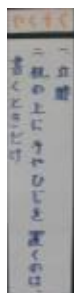
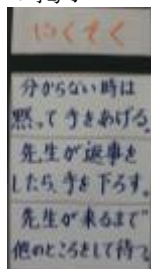
- (ア) 児童が分かる言葉と短い文で話す
- (イ) 板書→大きな文字、空間、少ない文字数



(イ) 学習の中に入れる項目

予防的対応…不適切行動を未然に防ぐ
 不適切行動の原因である学習における不安解消のための手立て → 学習の流れの中に「先生と一緒にする」を入れる。

(ウ) 学習のルールの揭示



イ 書きやすいノートを選択

ノートをマスのおおきさ、マスの中の罫線の有無、枠の濃さなどから、ノートを選択する。

ウ 簡単な数字や文章

算数文章問題…簡単な数値に変更する。
 短文に書き直す。

7 2まいの色紙を、
3人で同じ数ずつ分けると、
1人分は何まいになります



色紙が、9まいあります。
3人で分けます。
1人分は、なんまいでしょ

スモールステップで問題にチャレンジする。

エ マッチング

授業において「音・実物」がマッチして言葉が入っていくように視覚化を図る。

○算数の文章問題…文章通りに半具体物を使用した操作活動

※ 視覚的補助
…写真、絵、図
の活用

○国語の文字読み
…文字・音と意味



「通常の学級における
授業のユニバーサルデザイン化へ」



(3) 個への合理的配慮

ア 個別支援を行うための時間確保

	A児	B児	C児	D児
いっしょに				
読み				
書き				
確かめと練習	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> 個に応じた量 に配慮 </div>			
テスト				
プリント				
自分の活動				

全体で取り組む学習と各自で取り組む学習を組み合わせることで1単位時間の有効活用を考えた。誰がどの活動にどのくらいの時間を要するかを把握して学習指導過程を工夫した。時間差で指導に当たることができ、個別の学習指導の充実を図ることができた。

【その他の主な活動】

- 教育講演会 日時 令和元年 8月 7日 (水) 14:00~16:10
会場 都城市 高城生涯学習センター 多目的研修室
演題 「攻撃的な言動が見られる子どもの理解と対応～アタッチメント障がいについて～」
講師 山口 孝治 先生 (宮崎市立高岡小学校 教諭)
- 合同作品展 日時 令和2年 1月17日 (金)～20日 (月) 9:00~16:30
会場 ウェルネス交流プラザ「茶霧茶霧ギャラリー」

イ 具体的支援

(ア) 思考することが苦手な児童

筆圧がなく文字の殴り書き状態の改善
マスからはみ出さないように書かせることで文字が丁寧になり、課題に向き合う態度にも落ち着きが見られるようになった。



(イ) 覚えることが苦手な児童

漢字の習得…スモールステップで練習

- 段階①「ドリルを見て筆順を理解する」
- ②「ドリルを見ながら筆順正しく書く」
- ③「とめ、はね、はらいに気を付けて、ドリルを見ながら正確に書く」
- ④「見ないで書く」

→ 練習を十分にしてから確認テスト

- ※ 挑戦問題数は自分で決める。
- ※ 市販の漢字ドリルを利用する。



(ウ) 疲れるとイライラが増しあたりだす児童

イライラする前に休憩をとるように指導

→ 自分から休憩の許可をもらう

→ 自分の状態をコントロール

⇒ 活動の継続 ⇒ 賞賛

3 まとめ

- 「基礎的環境整備」において、学習活動の手順とルールを明確にすることによって、自主的な学習活動に取り組むことができた。
- 「授業のユニバーサルデザイン化」において、話し言葉や板書、問題提示の工夫によって、児童の理解を進めることができた。
- 「個への合理的配慮」において、個別の実態把握をもとに、時間配分や支援の内容を工夫することで、個別の学習を充実させることができた。